

進捗状況の概要（2 ページ以内）

① 大学改革の加速

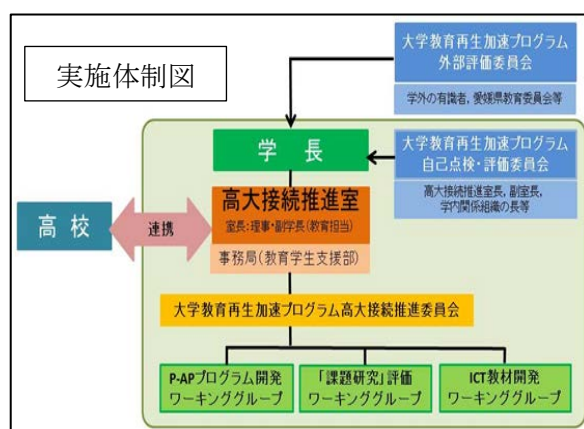
愛媛大学は、『輝く個性で、地域を動かし世界とつながる大学』を創造することを理念に、地域を牽引し、グローバルな視野で社会に貢献する教育・研究・社会活動を展開する。」ことをビジョンに掲げ、ビジョンを達成させる方策の1つとして、戦略1「地域の持続的発展を支える人材育成の推進」に積極的に取り組んでいる。

その具体的な取組の中に、「高大接続・入試改革」を設定している。平成28年度から実施している「高校生を高大接続科目等履修生として受け入れる」制度を継続・拡充し、大学キャンパスで高校生と大学生がともに学ぶ機会を増加させている。これにより、受講者個々の知識向上にとどまらず、お互いに刺激となって“学修効果”が高まっているとのコメントが授業担当教員から寄せられている。こうした取組によって、大学全体の改革を加速させている。

② 事業の実施体制

【学内の実施体制】

学長の下に「高大接続推進室」（室長：理事・副学長（教育担当））を設置し、大学全体で実施可能な体制を取るとともに、その下に高大接続推進委員会を置いている。また、3つの中心となる取組を検討・実施するため、3つのワーキンググループ（P-APプログラム開発ワーキンググループ、「課題研究」評価ワーキンググループ、ICT教材開発ワーキンググループ）を設置している。さらに、学内関係者による「自己点検・評価委員会」及び学外有識者等による「外部評価委員会」を設置し、評価体制を構築している。



< 3つの中心となる取組 >

- (1) パイオニア・アドバンスト・プレイスメント（P-AP）のプログラム創設と二重（デュアル）単位の付与
- (2) 「課題研究」評価に係るルーブリックの開発
- (3) 高大で一貫して汎用的能力を育てる ICT（eラーニング）教材の開発・運用

【教職員の参画】

主となる3つのワーキンググループには、委員である教員に加え、実施内容に関する職員も陪席し、取組実施が適切に行えるよう情報を共有している。また、大学と附属学校との連携においても教職員の共通理解の下で進められている。

【評価体制の整備】

自己点検・評価委員会と外部評価委員会を設置し、内外から評価を受ける仕組みを整備しており、十分な評価体制は構築できている。

【PDCA サイクル】

主となる3つの取組は、高大接続推進委員会が計画全体を主導し、ワーキンググループで具体的な取組を実施し、自己点検・評価委員会及び外部評価委員会において評価を受け、次年度に改善を行うサイクルが適切に回っている。

③ 事業の実実施計画・継続性

【計画の実施状況・見通し、体制的な継続性、資金的な継続性】

外部評価委員会からの評価結果や助言に基づき、高大接続推進委員会が計画全体を適切に改善し、ワーキンググループが具体的な取組を実施している。

補助期間終了後の体制については、主要な取組は既存の部署に当該役割を組み込むことによって、本事業の継続性を確保していく方向で現在、検討中である。資金的な継続性は外的要因もあって計画を立てにくいのが実情ではあるものの、学内の競争的資金獲得や可能な限り経費がかからない工夫を行うなどの方策を検討している。

④ 事業成果の普及

【波及効果、社会的評価、長期的視点】

本取組を受講した高校生が本学に進学してきており、彼らが後輩に対して指導・助言するなどの波及効果が見られている。また、高校生の時に受けた大学の授業によって、大学進学意欲が大きく高まり、その後のモチベーションの向上が見られている。こうしたサイクルが継続していくことによって長期的な成果がえられるのではないかと考えられる。

外部評価委員会では、学習指導要領の改訂に伴って現場で活用の拡大が検討されている「ルーブリック評価」について、委員を依頼している教育委員会関係者から「効果的に発信して現場に浸透させることが望ましいと考えるので協力していきたい。」との意見をいただいている。

開発したeラーニング教材についての広報活動を行っており、今後他の高校で利用され、大学レベルの学びを促進させられることが考えられる。

⑤ 選定されたテーマの取組を中核にした総合的な大学教育改革の取組

テーマⅢに採択された本学で実施している「入口（入学）から出口（卒業）までの取組」の中で、主な取組を挙げる。

○入口（入学）前

- ・高大接続改革で求められている「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」の評価を行うため、「活動報告書、調査書、面接、集団討論、プレゼンテーション」のいずれか又はこれらの組み合わせを「点数評価」して合否判定に用いる『入試改革』
- ・高校生の段階で大学での“深い学び”の基盤を醸成するために、大学の授業（共通教育）を大学生とともに履修し、単位を取得する「高大接続科目等履修生制度」
- ・愛媛大学附属高校では、「高大接続科目等履修生制度」により取得した単位を高校の単位としても認める二重単位の付与
- ・附属高校の生徒が大学の研究室において、大学教員の指導により研究を行って、その成果を発表する「課題研究」プログラム

○入口（入学）後

- ・「高大接続科目等履修生制度」で取得した単位は、申請により既修得単位として愛媛大学入学後に大学の単位としても認定
- ・愛媛大学版「汎用的能力」（愛大学生コンピテンシー※1）の習得率向上を目指した準正課教育※2の充実やアクティブ・ラーニング、フィールド・ワーク、インターンシップなどの科目数増加

※1 学生が卒業時に身につけていることが期待される能力。5つの能力と12の具体的な力で構成。

※2 卒業要件には含まれない、あるいは単位付与を行わないが、教育理念や教育戦略に基づいて教職員が関与・支援する教育活動や学生支援活動

- ・学生自身による学修プロセス及び達成状況の自己管理に役立てるとともに、教員による学生の学修状況の把握及びきめ細かな指導・助言を行う「GPA制度」の導入
- ・学生が自主的に調査・研究したいと考えるプロジェクトを大学として経費支援する「学生による調査・研究プロジェクト（プロジェクトE）」の実施（平成12年から継続実施）

○出口（卒業）

- ・愛媛大学版「汎用的能力」（愛大学生コンピテンシー※1）の習得率を問う「卒業予定者アンケート」の継続的実施
- ・学生の活動を記録し、その結果を学生指導に活かす「学修ポートフォリオ」の導入
- ・学内競争的資金の愛大教育改革促進事業により、ディプロマ・サプリメントを開発（社会共創

（テーマ：Ⅲ（高大接続）、大学等名：愛媛大学）